

パワー・カーボン・テクノロジー社 本社工場 竣工式について ～GSカルテックス社との合併会社でキャパシタ電極用炭素材を生産～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)とGSカルテックス社(本社:大韓民国ソウル市 会長:許 東秀 ホ・ドンス)が合併で設立したパワー・カーボン・テクノロジー社(社長:徐 元培 ソ・ウオンベ、以下「PCT社」)は、本日、大韓民国 慶尚北道 亀尾(グミ)市にて、キャパシタ電極用炭素材を生産する本社工場の竣工式を執り行いましたので、お知らせいたします。

キャパシタは、瞬間的に多くのエネルギーを必要とする建設機械や鉄道などにおいて、従来、使用されていなかった減速時に発生するエネルギーを電力として蓄えることで、エネルギーを有効利用できる蓄電装置です。今後は、太陽光発電や風力発電の蓄電池への用途拡大も期待されています。

このキャパシタの性能を決める重要な材料が電極に用いる炭素材です。当社の麻里布製油所では、製鉄会社の電気炉電極用の炭素材(ニードルコークス※)を製造しており、世界レベルで品質の高さが認められています。こうした炭素材製造の経験を活かしキャパシタ電極用炭素材の開発を続けてきた当社は、同様に高性能炭素材の開発を進めていたGSカルテックス社と合併でPCT社を設立しました。

今般、PCT社は、麻里布製油所のコークスを原料とした、キャパシタ電極用炭素材の工場を竣工し、試運転を経て、4月から本格的な商業生産を開始する予定です。

今後は、早期に販売数量300トンを達成するとともに、需要拡大にあわせ順次設備増強を行い、売上げ50億円程度を目指してまいります。

※ ニードルコークスとは、コークス(重質油を加熱した際に残る炭素の固形物)を加熱し、針状(=ニードル)の結晶が発達したもの。鉄スクラップから鉄をリサイクルするために用いられる電気炉の電極用の骨材として使われている。
世界シェアは10%以上となる。(最高級の太物黒鉛電極用に限れば世界シェア50%以上)

記

1. 竣工式の概要

- (1)日時 2010年3月12日(金) 14:00～15:00
 (2)場所 パワー・カーボン・テクノロジー社 本社工場内
 (3)主な出席者 GSカルテックス 代表取締役会長 許 東秀(ホ・ドンス)
 新日本石油 代表取締役会長 渡 文明
 PCT社 代表取締役社長 徐 元培(ソ・ウオンベ)
 (4)竣工式の様子



中央左:GSカルテックス 許会長 中央右:新日本石油 渡会長

2. パワー・カーボン・テクノロジー社概要

- (1)所在地 大韓民国 慶尚北道 龜尾(グミ)市 龜浦洞(グボドン)
龜尾国家産業団地第四団地 22-1ブロック 3ロット
- (2)事業概要 キャパシタ電極用炭素材の生産、販売、研究開発
- (3)出資比率 当社50%、GSカルテックス社50%
- (4)生産能力 年産 300トン

以上

 [キャパシタの原理、キャパシタ電極用炭素材の生産フロー](#) (PDF:161.9KB)